

## 医科薬理学分野

### 論文

#### A 欧文

##### A-a

1. Morimura N, Yasuda H, Yamaguchi K, Katayama KI, Hatayama M, Tomioka NH, Odagawa M, Kamiya A, Iwayama Y, Maekawa M, Nakamura K, Matsuzaki H, Tsujii M, Yamada K, Yoshikawa T, Aruga J: Autism-like behaviours and enhanced memory formation and synaptic plasticity in Lrln2/SALM1-deficient mice. (共著)、Nat Commun、8巻15800頁～、2017年06月、(IF: 12.124)
2. Ishiguro A, Hatayama M, Otsuka MI, Aruga J: Link between the causative genes of holoprosencephaly: Zic2 directly regulates Tgif1 expression. (共著)、Sci Rep、8巻1号2140頁～、2018年02月、(IF: 4.259)
3. \*Hiroshi Ueda, \*Hayato Matsunaga, Yousuke Matsushita, Shiori Maeda, Ryusei Iwamoto, Shigeyuki Yokoyama, Mikako Shirouzu. \*equal contribution. Ecto-F<sub>0</sub>/F<sub>1</sub> ATPase as a novel candidate of prothymosin  $\alpha$  receptor. *Expert Opin Biol Ther. in press.* (IF: 3.684)

##### A-b

1. Hatayama M, Aruga J: Role of Zic Family Proteins in Transcriptional Regulation and Chromatin Remodeling. (共著)、Adv Exp Med Biol、1046巻353頁～380頁、2018年02月、(IF: 1.881)
2. Aruga J: Lophotrochozoan Zic Genes.、Adv Exp Med Biol、1046巻69頁～86頁、2018年02月、(IF: 1.881)
3. Aruga J, Hatayama M: Comparative genomics of the Zic family genes. (共著)、Adv Exp Med Biol、1046巻3頁～26頁、2018年02月、(IF: 1.881)
4. Aruga J: Zic Family Proteins in Emerging Biomedical Studies.、Adv Exp Med Biol、1046巻233頁～248頁、2018年02月、(IF: 1.881)
5. Aruga J, Millen KJ: ZIC1 Function in Normal Cerebellar Development and Human Developmental Pathology. (共著)、Adv Exp Med Biol、1046巻249頁～268頁、2018年02月、(IF: 1.881)

##### A-c

1. Jun Aruga: Zic family - Evolution, Development and Disease. (編著)、Springer、2018年02月

#### B 邦文

##### B-b

1. 有賀 純 : LRR シナプスオーガナイザーと神経発達障害、BIO INDUSTRY、35巻2号24頁～33頁、2018年02月

### 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	0	0	2

### 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中川慎介・講師	評議員	日本薬理学会
有賀純・教授	評議員	日本薬理学会

### 競争的研究資金獲得状況 (共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
有賀純・教授	日本学術振興会	代表	神経発達障害の中核機構としてのシナプスオーガナイザーと代謝型受容体の相互作用
有賀純・教授	喫煙科学財団	代表	喫煙歴関連遺伝子 LRRN3 の生物学的役割の解明
有賀純・教授	日本医療研究開発機構	分担	孤発性アルツハイマー病アミロイド蓄積の原因に即した治療薬と診断用バイオマーカー

			一の開発
中川慎介・講師	日本学術振興会	代表	リゾリン脂質制御に基づく新規脳血管保護法の開発
中川慎介・講師	日本学術振興会	分担	脊髄損傷に対する新規神経保護薬の開発
中川慎介・講師	日本学術振興会	分担	遺伝的脳卒中モデルラットの血液脳関門は脆弱カーインビトロ再構築技術を用いた検討
畑山 実 助教	日本学術振興会	代表	精神神経疾患患者で見いだされた SLITRK1 変異体の病態生理的意義の解明
松永隼人・助教	長崎医学同窓会	代表	シナプスオーガナイザー：Slitrk family の分子機能実態の解明 ～運命決定を担う相互作用タンパク質の膜タンパク質の網羅的同定～

## その他

### 非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
中川慎介・講師	非常勤講師（薬理学）	長崎市医師会看護専門学校専門課程

### 新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
有賀純・教授	発達障害の原因解明に関する論文発表	NHK	2017年 6月13日	発達障害の発症に、脳内で作られるタンパク質の一種「LRFN2」が関係していることを発表。新知見の啓蒙。
有賀純・教授	発達障害の原因解明に関する論文発表	長崎新聞	2017年 6月13日	発達障害の発症に、脳内で作られるタンパク質の一種「LRFN2」が関係していることを発表。新知見の啓蒙。
有賀純・教授	発達障害の原因解明に関する論文発表	日刊工業新聞	2017年 6月13日	発達障害の発症に、脳内で作られるタンパク質の一種「LRFN2」が関係していることを発表。新知見の啓蒙。